

氏名

渡辺正博

学位の種類 医学博士

学位授与番号 乙 第 1771 号

学位授与の日付 昭和62年3月31日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）

学位論文題目 肝と免疫複合体：血中免疫複合体の肝への集積と肝細胞傷害性についての実験的研究

論文審査委員 教授 太田善介 教授 木村郁郎 教授 折田薰三

学位論文内容の要旨

クロラミンT法によってヨード125で標識したアミアローオロソムコイド(ASOR), オロソムコイド(OR)と人血清アルブミン(HSA)を抗原として, それらに対応するラビットのIgG抗体と4℃で一昼夜反応させて, 抗原過剰, 抗原・抗体最適比, 抗体過剰の3つの条件で免疫複合体を作製した。それらの免疫複合体をラットの門脈より投与して, 血中動態と各臓器への取り込みを検討した。最適比と抗体過剰の免疫複合体は, 抗原のちがいに関係なく, 速やかに肝臓に取り込まれた。

前もってASORを投与しておけば, 抗体過剰のIgG免疫複合体の取り込みは抑制されたが, 最適比のIgG免疫複合体の取り込みは抑制されなかった。またオートラジオグラフィーで肝組織内の局在をみると, 抗体過剰のものは肝細胞の類洞側に偏在してみられたが, 最適比のものは類洞内のKupffer細胞に取り込まれていた。抗体過剰のIgG免疫複合体は, 肝細胞のアシアロ糖蛋白受容体を介して肝細胞に取り込まれたが, それに伴う補体系の活性化と肝細胞障害の所見は得られなかった。この免疫複合体の取り込み機構は生理的な免疫複合体の排除機構の1つであると思われた。

論文審査の結果の要旨

本研究はクロラミンT法によってヨード125で標識したアミアローオロソムコイド(ASOR), オロソムコイド(OR)と人血清アルブミン(HSA)を抗原として, それらに対応するラビットのIgG抗体と, 抗原過剰, 抗原・抗体最適化, 抗体過剰の3つの条件で免疫複合体を作製した。それらの免疫複合体をラットの門脈より投与して, 血中動態と各臓器への取り込みを検討した。最適比と抗体過剰の免疫複合体は, 抗原のちがいに関係なく, 速やかに肝臓

に取り込まれた。またそれに伴う補体系の活性化と肝細胞障害の所見は得られなかった。これらの業績はこの免疫複合体の取り込み機構は生理的な免疫複合体の排除機構の1つであることを明らかにした価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を取得する資格があると認める。